

月	栽 培 管 理
1	<p>【整枝剪定】 縮間伐を行い、樹高を下げるように整枝する。結果母枝が主枝・亜主枝に近くなるようにし、切り戻し剪定を心掛ける。</p>
2	<p>【粗皮けずり】 樹幹害虫（ヒメコスカシバ等）の防除に最も効果が高い防除方法。特に「伊豆」は被害を受けやすい品種なので最低でも枝の分岐部は行う。</p> <p>【春肥施用】（2月） 柿配合 100kg/10a</p>
5	<p>【摘蕾】 5月中旬までに、1結果枝に1蕾となるように摘蕾し、下向きで大きな蕾を残す。 大玉を作るためには「摘果」よりも重要な作業であり、6月の生理落果も軽減できる。</p> <p>【人工授粉】 人工受粉の省力化のためにミツバチの利用も有効。 ただし、「次郎」系の柿では、種が入ると果頂裂果しやすいことに注意する。</p>
6	<p>【追肥】6月中下旬 柿配合 50kg/10a</p>
7	<p>【摘果】 生理落果(前期)が終わる7月上旬から、7月中旬までに行ない、翌年の花芽の分化を促がす。 ※1結果枝1果として1結果母枝に2~3果にする。基部の枝を摘果して、次年度の結果母枝の充実をさせる。 ※この時期に摘果し肥大を促進させないと以後の肥大が悪くなる。</p> <p>【芽かき】 摘果と同時に行うと効率がいい。同じ場所から出ている上向きの強い新梢や短い新梢をとり、斜めの新梢を残し、充実した結果母枝を育成する。 ただし、大きな切り口では、癒着促進のため芽かきは夏以降に行う。</p>
8	<p>【灌 水】 梅雨明け後に乾燥が続く場合は一週間に一回程度灌水する。</p>
9	<p>【枝つり】 着色を良くさせるために、果実の重みで下がった枝を吊り上げ果実に光を当てる。</p>
10	<p>【収 穫】 十分に着色した果実から順次収穫する。</p>
11	<p>【礼肥及び石灰の施用】（10月下旬~11月） 苦土石灰 100kg/10a 柿配合 50kg/10a</p>
12	<p>樹勢を回復させ翌年の花芽の充実と着蕾を促進させるために大切な肥料。 注）遅くなると効果が無くなるので、収穫を始めた頃を目安に施肥する。</p>